

経済・金融
フラッシュユーロ圏消費者物価(25年4月)
ー総合指数は横ばい、コア指数は上昇

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数は横ばい、コア指数は上昇

5月2日、欧州委員会統計局(Eurostat)は4月のユーロ圏のH I C P (Harmonized Indices of Consumer Prices: EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は2.2%、市場予想¹(2.1%)より上振れ、前月(2.2%)と同じだった(図表1)
- ・前月比は0.6%、予想(0.5%)より上振れ、前月(0.6%)と同じだった

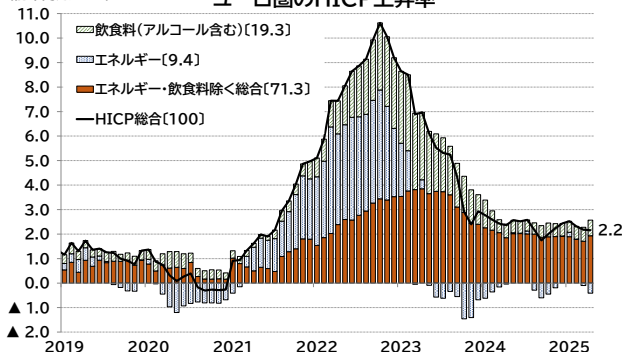
【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は2.7%、予想(2.5%)より上振れ、前月(2.4%)から上昇した(図表2)
- ・前月比は1.0%、前月(1.0%)と同じだった

(図表1)

(前年同月比、%)

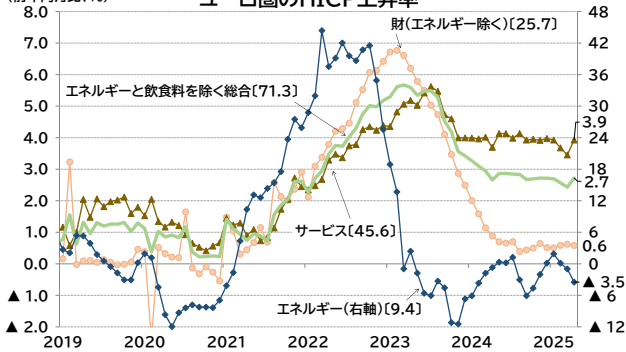
ユーロ圏のHICP上昇率



(図表2)

(前年同月比、%)

ユーロ圏のHICP上昇率



2. 結果の詳細: サービスインフレ上昇がコア指数を押し上げ、ただし基調的な動きは掴みにくい

4月のH I C P上昇率³(前年同月比)は全体で2.2%となり、3月(2.2%)と同じだった。一方、「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」は2.7%と3月(2.4%)から上昇した。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財(飲食料も除く)」が2月0.6%→3月0.6%→4月0.6%と横ばい推移が続いている。「サービス」

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアコアC P I、米国の消費者物価指数のコアC P Iに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアC P Iや米国のコアC P Iとは若干定義が異なる。

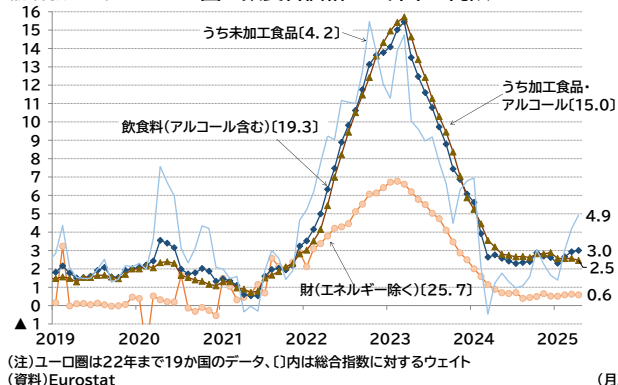
³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

(エネルギーを除く)は2月3.7%→3月3.5%→4月3.9%となり、低下傾向にあったが4月は反発した。ただし、イースターの時期(24年は3月、25年は4月)が影響している可能性があり、基調的な動きが掴みにくくなっている点には留意が必要だろう。前年同月比寄与度は、「財」が0.14%ポイント程度、「サービス」が1.70%ポイント程度と見られる。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で2月0.2%→3月▲1.0%→4月▲3.5%とマイナス幅を拡大させている。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.41%ポイント程度(2月は▲0.10%ポイント)と見られる(前掲図表2)。

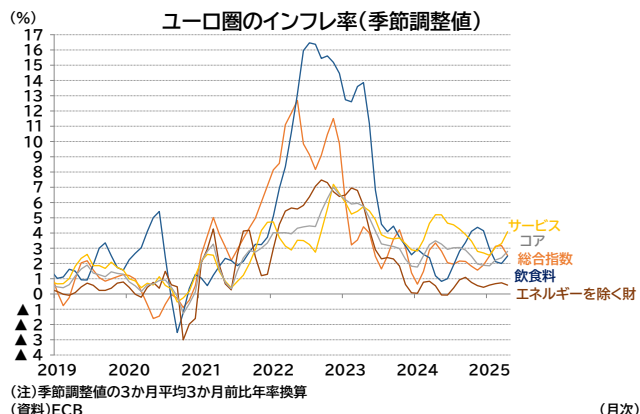
(図表3)

ユーロ圏の飲食料価格の上昇率と内訳



(図表4)

ユーロ圏のインフレ率(季節調整値)



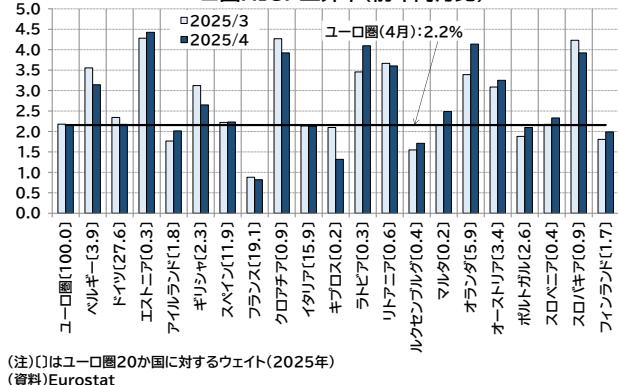
「飲食料(アルコール含む)」は、前年同月比で3.0%(3月2.9%)と上昇(図表3)、内訳を見ると、飲食料のうち加工食品の伸び率は2.5%(3月2.6%)にやや減速したが、未加工食品が4.9%(3月4.2%)と加速した。飲食料の前年同月比寄与度は0.64%ポイント程度(3月は0.57%ポイント)と見られる。

4月はエネルギーが低下したが、サービスと食料がインフレ率を押し上げる形となった。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると(図表4)、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が2.5%(3月3.2%)、コアが2.8%(3月2.4%)、エネルギーを除く財が0.6%(3月0.7%)、サービスが4.1%(3月3.3%)、飲食料が2.5%(3月2.0%)となった。4月は財以外の物価上昇の勢いが2%を超えている状況にある。

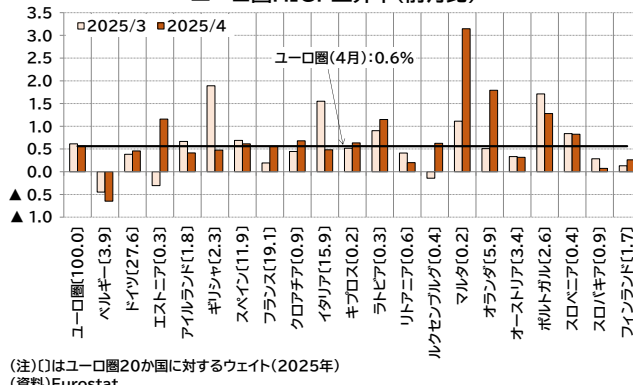
(図表5)

ユーロ圏HICP上昇率(前年同月比)



(図表6)

ユーロ圏HICP上昇率(前月比)



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは11か国、残りの9か国は低下した(図表5)。また、物価目標の2%を下回ったのは4か国だった。なお、前月比では20か国中19か国がプラス、1か国がマイナスの伸び率となった(図表6)。